



定期代議員総会

6月1日(金)アイーナにおいて定期代議員総会が開催されました。来賓として、岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課総括課長 平藤淳氏、同じく主任指導主事兼主任保健体育主事 入駒一美氏にご出席いただきました。

福士会長は挨拶の中で、「昨年度は通常の研究大会等に加え、東日本大震災支援対策委員会を中心に支援活動を進め、支援物資の要望を取りまとめ、スイセンプロジェクト、ホームページの立ち上げ等、会員の思いを一つにした活動ができた。今年度は支援活動の継続と、被災時の養護教諭や子どもたちの命、そして地域の人たちの命を守ってきたきめ細やかな養護教諭の活動を記録に残すため、報告集の作成を提案したい。会員の皆

様のための事業展開になるよう、熱心なご協力をいただきました。さらに、今年度は県外から養護教諭が被災沿岸地区に派遣されているなど、県内はもちらん県外からも様々な支援をいただいている。」と話されました。

また、スポーツ健康課 総括課長 平藤淳氏より、「ご祝辞をいただき、「震災後の心のケアなど、児童生徒の対応や、日頃から児童生徒の心身の健康の保持増進、並びに学校保健活動の充実のために尽力いただいていることに感謝申し上げる。近年、社会環境・生活環境の急激な変化は児童生徒の心身の健康に様々な影響を与えており、心の健康問題、肥満傾向、アレルギー疾患、薬物乱用、感染症の問題など、児童生徒を取り巻く課題がたくさんある。このような現状において養護教諭には、児童生徒の健康課題に適切に対応し、児童生徒が自らの健康課題を認識し、その解決に主体的に取り組むことができるような実践力を身に付けさせてほしい。そのためにも、保健室機能の一層の充実を図ること、養護教諭の専門性をさらに高め、児童生徒の生涯を通じて健康づくりの基礎能力を育成していくための計画的組織的な実践、研究をお願いしたい。」とのお話がありました。

議事は議長の高橋妙子先生(両警察任理事)と今出純子先生(気仙常任理事)の進行により進められました。協議事項の詳細については、総会資料をご覧ください。

講演 「これからの児童生徒の心の健康について、学校としてどう取り組むか」



岩手県立盛岡農業高等学校 教育相談課主任 特別支援コーディネーター 教諭 前田 健二 氏

今回の内容は、教育カウンセリング心理学から見た学校における援助について、盛岡農業高等学校での取り組みを紹介しながら、今話題になっている包括的スクールカウンセリング、その中でも、ガイダンスカリキュラムについて考えていければと思います。

【児童・生徒の変化】
河村茂雄先生が、13年前に「教師のためのソーシャルスキル」という本の中で挙げた現代の児童生徒の特徴をまとめると、コミュニケーション能力の低下、ソーシャルスキルの未熟、欲求不満耐性の低下、集団や社会に関わる意欲の低下、知識と生活体験の不足の5つが挙げられますが、現在もその傾向は強くなっています。今の高校生を見てみると、学習意欲がほとんどない生徒が増えており、それと同時に基礎的な力がついていない子どもも多いです。

【包括的スクールカウンセリング】
これについては、早稲田大学の本田恵子先生のグループが「包括的カウンセリングの理論と実践」という本で紹介されています。
今までの学校心理学という心理・社会領域、学習領域、進路領域の3つに「4方向からのアプローチ」を付け加え、それぞれ何をするか判断が必要だとされています。不登校生徒がいるかどうかに関わらず、3つの領域に関わるようなガイダンスカリキュラムを各学校で運用してほしいというのが、今日の演題の「学校としてどう取り組むか」に当たると思います。そして、どの子に対しては個別のプランニングをすることを提唱しています。

【ガイダンスに認知行動療法を】
ガイダンスカリキュラムを組むときの基本的な背景になるのが、認知行動療法です。「認知」受け止め方、考え方を変える。「行動」行動の仕方を学ぶ。「情動」呼吸法、弛緩法、自律訓練法などでリラクセスする。この3つが大事です。

【盛岡農業高等学校の例】
4月に、①学級づくり・仲間づくり ②聴く訓練 ③非行予防をねらいとして2泊3日の研修をします。
学級づくりでは、ジャンケン遊びを取り入れ、楽しい思いを優位にさせ、感情交流を図ります。その次に2人1組でトラストワークをし、信頼体験をさせます。次に4人組で自己紹介をさせると、聴き方訓練にもなり、作業を入れて一体感を持たせるわけです。
そして、一人ひとりがミニ内観をやった後、学級全体で「こう言われて嬉しかった」などと温かい感情を交流させ、まとめます。

2日目は、傾聴スキルトレーニング、非行予防エクササイズを行い、さらに大學生に参加してもらってWYSHによる性教育をデートDVまでトータルで行います。
この2泊3日の研修の効果は、データで実証されており、QUを見ると、友人関係、教師や学級との関係が上がり、さらに学習意欲、進路意識も上がっています。また、承認得点も上がり、被害者得点「嫌な思い」は下がります。すると、明らかに欠席数が減ってきます。
【教育現場における安全と安心】
今の学校では、包括的カウンセリングで、学校生活における安全・安心感を形成していくことが大事だということです。